




2023 年 1月 18日

学位論文審査並びに最終試験結果報告書

大学院歯学研究科長 殿

主査 照光 真 
副査 根津 顕弘 
副査 植原 治 

今般 岡田 悠之介 にかかわる学位論文審査並びに最終試験を行い下記の結果を得たので報告する。

記

- 1 学位論文題目 交感及び副交感神経性血流調節の歯肉部位特異性と相互作用
- 2 論文要旨 別添
- 3 学位論文審査の要旨 別添 (様式第12号)
- 4 最終試験の要旨 別添 (様式第13号)

以上の結果 岡田 悠之介 は博士 (歯学) の学位を授与する資格のあるものと判定する。

学位論文審査の要旨

主査

照光 真

副査

根津 顕弘

副査

植原 治

副査

氏 名 岡田 悠之介

学位論文題目 交感及び副交感神経性血流調節の歯肉部位特異性と相互作用

以下本文

歯肉の3つの領域に関する血流と血管コンダクタンスに対して、副交感神経および交感神経の自律神経系の作用を検索している。これらの手法は本研究が施行された教室ですでに確立されたものを応用して、実験目的に合わせて用いている。その結果、副交感神経性の血管拡張にはアセチルコリンとVIPが相互に関わって関与することに加え、アセチルコリンとVIPの感受性が歯肉乳頭と付着歯肉で異なるという興味深い知見を報告した。さらに、交感神経系の血管収縮調節にも歯肉部位の感受性の違いを見出し、歯周病で影響を受けやすい歯肉乳頭で強い血流低下を起こすことを明らかにした。自律神経の変調が歯肉の領域に応じて血行動態を変化させることは、臨床的にも重要な知見となるだろう。

審査においては、用語の定義の不明瞭な点、方法や論旨の流れの説明が不十分な点、統計結果の表記方法、考察での文献検索の不十分な点などが指摘され、いずれも十分な回答と説明があり、適切に改訂が行われた。

最終試験（学力の確認）の要旨

主査

照光 真

副査

根津 顕弘

副査

植原 治

副査



氏 名 岡田 悠之介

以下本文

以下の質問を行った。口腔顔面領域と四肢体幹の血管の血流制御の神経機構の相違、血流計の機構とその長所短所、時系列データの処理・解析方法、統計手法とその結果の解釈、実験に用いた薬剤投与濃度と反応の関係性、歯肉組織各部位の組織特性で特に血管の分布に関する先行研究と本研究との比較検討、これらに対して理解と適切な回答が得られた。